



入学アルバムより



卒業アルバムより

11組担任 上原先生と私たち



高津(志摩) 律子

筆者：入学アルバムより

- 高校時代といえば早や60年前である。通学手段である青木線のバスはいつも満員で、朝の通学時は特に渋滞が酷く、専売公社前の停留所で降りると、上級生に混じって駆け上った崖路はすでになく、当時の心情だけが思い起こされるばかりである。
- 担任の上原先生はまさらかな青年教師であった。飯島、志摩、藤原、守田の女子4名は男子の中にバラまかれ、先生は多少4名の女子を扱いかねていたのかもしれない。当時の上田高校のベテラン揃いの教師陣は授業時には教科書を脇に置き、時事や文化や政治などについて教養の深さを披歴するとともに持論を展開した。勉強とは自ら学ぶものであることを教えていたのかもしれない。その中で上原先生は受験競争の中にいながら、真剣さが感じられない私たちに学力向上のため、熱心に叱咤激励してくださった。
- 上原先生と私たちはそれぞれの人生の混沌としながらも歩き出していく時代を期待を感じながら共有したように思う。恩師がお元気で過ごされていることをうれしく、感謝している。



筆者：入学アルバムより

米山(藤原) 順子

- 今から思えば若くて背が高くハンサムな先生。でもその頃は真面目という印象しかなかった。土足で生徒の中へふみ込んでくることはなかった。1年だけの在籍で分かりませんが、先生も模索中だったかも。でも、自由な雰囲気いいクラスだった。
 (編集者注：米山さんは2年時に転校されました。)